取材中も笑顔を絶やさない中村さん。
對馬代表は「リーダーとして目標を達成し、大人になるためのいい経験になったのでは」と今後の活躍に期待を寄せます。

キラリ十和田人 とわだひと
— 第28回 —

中村 ののかさん

真剣になりすぎずに、子どもらしい元気な演舞を——。北の大地でつかんだ2年連続の“1番星”

PROFILE

市立甲東中学校3年。小学4年のときに「馬花道」に入る。中学校ではバトミントン部に所属。先に行われた中体連郡大会では、ダブルスで第3位の好成績を収める。趣味はビデオ鑑賞（各イベントでのチームの踊りを繰り返し見ている）

6月4日から8日にかけて北海道札幌市で開催された「第23回YOSAKOIソーラン祭り」。同大会のジュニア大会（18チーム参加）に、よさこいチーム「馬花道（ばかどう）」（對馬秀（しゅう）代表）の中学生以下のチーム「馬花道ジュニア」が出場。新作の演舞曲「源流十和田湖」を披露。見事に大賞を受賞し、昨年に引き続き2連覇を達成しました。

大会には馬花道ジュニア単独では13人と人数が少なかったため、交流のある秋田県横手市のチームなどとチームを組み29人で出場しました。その即席の合同チームをリーダーとしてまとめたのが、中村ののかさん。

昨年度から馬花道ジュニアのリーダーを務めている中村さん。「大人と一緒のときとは違い、ジュニアのときは一番の年上、みんなを引っ張っていかなければ」と、話します。

昨年、初出場ながら同大会を制した馬花道ジュニア。今回の大会ではさらなるレベルアップが求められましたが、そこには合同チームならではの苦しさが。「昨年とメンバーが変わって、なかなか振りがそろわなかったです。何よりも、合同練習の時間がなかったです」

不安を抱えながら迎えた本大会。審査前、周囲に緊張感が伝わったのか、馬花道の大人から「1人で抱え込まなくてもいいよ」と声が掛けられ、その一言で気持ちが楽に。「自分も伸び伸びと踊れたし、周りのメンバーも練習の成果を出せているのが分かりました」と、手応えを感じて臨んだ審査発表、そして——。「受賞の瞬間は喜び過ぎて頭が真っ白になりました」と、うれしそうに笑顔を見せました。

今年度でジュニアチームを卒業する中村さん。「高校生になってもよさこいは続けます。馬花道の人数をもっと増やして、いずれは札幌のファイナルステージで踊りたいです」と、力強く話しました。

中村さんのよさこい道はまだ通過点、華やかな未来へ向かい「馬花道」とともに踊り続けます。

▲副リーダーとして中村さんを支える西野颯希（さつき）さん（写真左）と桜庭瑞（みずき）さん（同右）（ともに甲東中・3年）。よさこいを踊るのは「楽しい」と声を揃えます。

▼6月27日、メンバーが市役所を訪れ、小山田市長に大賞受賞を報告